Ⅰ．経済学部として行った組織的活動

1　和歌山地域経済研究機構

和歌山地域経済研究機構は経済学部、和歌山商工会議所、和歌山社会経済研究所の 3 者に、今年度より観光学部が加わることとなった。今年度、新規事業として、中心市街地活性化策を提案するために和歌山市中心市街地再生研究会を発足した。本学での役員、研究会メンバー、刊行物は次のとおりである。

1.1　役員

理事長：　竹内昭浩
副理事長：　山田良治（観光）
理事：　今田秀作、鈴木裕範

1.2　研究会

【コンパクトシティ研究会】
主査：　大泉英次
研究員：　足立基浩、辻本勝久、山田良治（観光）、堀田祐三子（観光）
【ホスピタリティ研究会】
コーディネーター：　竹林明　（観光）
研究員：　吉村典久、出口竜也（観光）、廣岡裕一（観光）、竹田明弘（観光）
【和歌山市中心市街地再生研究会】
主査：　足立基浩
研究員：　大泉英次、辻本勝久、山田良治（観光）、堀田祐三子（観光）

1.3　刊行物

機関誌　地域経済 No.12
研究成果 No.16　「コンパクトシティと都市づくり」2008 年 11 月発行

2　地域マネジメントプログラム

経済学研究科では､2007 年度から和歌山市及び近隣の市町の公務員並びに地域活動に関わっている者を対象に「地域マネジメントプログラム」を開講して いる。この大学院授業の開講によって大学院の定員充足を図るとともに、地方公務員等のスキルアップを促進し、地域の再生・活性化に寄与することもめざしている。

2008 年度の開講科目は次のとおりとなっている。

- 和歌山県の地域政策特殊問題　橋本卓爾、大泉英次、足立基浩
- 経営学特殊問題　吉村典久
- 公共経営論特殊問題　江口雅祥（客員教授）
- 中心市街地活性化論特殊問題　石橋貞男
- 民事法特殊問題　吉田雅章

なお、履修者数は次のとおりである。() 内は正規院生受講者数。

《前期科目》

・和歌山県の地域政策特殊問題　13 人（4）
・　経営学特殊問題　　2 人（1）
・　公共経営論特殊問題　2 人（1）
《後期科目》
・　中心市街地活性化論特殊問題　9 人（2）
・　民事法特殊問題　9 人（6）

3　紀南サテライト

3.1　前期および後期に、大学院科目 6 科目、学部教養科目 4 科目を開講

経済学部教員が担当した大学院科目は、「現代の経済と金融」（大泉英次）、「現代社会と法」（木内隆司、吉田雅章、長坂守）、学部科目は「コミュニティと地域福祉」（鈴木裕範、金川めぐみ）。

3.2　和歌山大学サテライト部遠隔双方向講義システムの構築を検討

栄谷キャンパスと、紀南サテライトはじめ各サテライト、生涯学習教育研究センター、新宮高校、橋本高校をリンクする遠隔双方向講義システムの構築を検討している。

3.3　和歌山大学・北海道大学北方生物圏フィールド科学センター連携協議会の開催

和歌山大学・北海道大学北方生物圏フィールド科学センターの包括連携協定に基づく第 3 回連携協議会を 10 月 2 日・3 日、紀南サテライトを会場として開催した。協議会のほか、情報交換、現地視察を行った。

3.4　和歌山県教育委員会等と連携した地域活性化人材育成セミナーの開催

和歌山県教育委員会、田辺市、生涯学習教育研究センターと連携して、地域活性化人材育成のための「マナビ（学び）スト」セミナーを開催した。

3.5　紀南地域における本学ならびに他大学研究者の地域研究、地域貢献活動の状況調査

紀南地域における本学ならびに他大学研究者の地域研究、地域貢献活動の状況を調査し、紀南サテライトを核とした情報・経験交流のネットワーク構築をめざす。

3.6　2009 年度事業計画策定に向けた和歌山県との実務者協議

2009 年度事業計画策定に向けた和歌山県企画部との実務者協議を定期開催中。事業計画についての合意形成をめざす。

3.7　ビッグ U 内における諸団体との連携の強化

ビッグ U 入居諸団体と連携して、U 遊祭の企画、実施などの活動を行う。

3.8　岸和田サテライトとの連携の強化

紀南サテライト、岸和田サテライト両事務室スタッフ間の連携を図る。

4　岸和田サテライト

岸和田サテライトでは、これまで事業領域を①高等教育部門、②地域研究・生涯学習部門、③地域連携・産官学連携部門、④高校連携部門に区分し、岸和田市をはじめとする南大阪地域のニーズに対応しながら事業展開を行っている。2008 年度からは組織的な体制強化のもとでサロンの開設等新しい事業にも乗り出している。以下、2008 年度を中心に主な事業展開・計画と経済学部の係わりについて概観しておこう。

4.1　高等教育部門

（1）大学院授業

市民ニーズをできるだけ取り入れながら社会人を対象に 2006 年度より経済学研究科と教育学研究科において大学院授業（科目等履修）を実施している。経済学研究科は、06 年度 5 科目、07 年度より 6 科目の大学院授業を展開し、サテライト事業の中核を担っている。08 年度の経済学研究科開講科目と担当者は次のとおりである。

- 現代行政作用法　森口佳樹
- 経営学特論　高岡伸行
- グローバル経済論　大橋迪男
- 観光まちづくり研究 佐藤崇雄（非常勤）
- 現代日本税制論　田中将　　（非常勤）
- 自然環境・環境保全研究　システム工学部担当

（2）学部授業

より幅広い市民の知的要求を受け入れる場として 08 年度から新たに学部授業を 2 科目（前期・後期各 1 科目）開講した。科目名と担当者は以下のとおり。

- 観光　きのう・きょう・あす　佐藤崇雄（非常勤）
- 世紀初頭における日本と英国の小説　筒井均（経済学部名誉教授）

4.2　地域研究・生涯学習部門

岸和田市を中心に市民の地域研究･生涯学習活動と協働して地域学習活動の推進を図っている。この活動は、和歌山大学地域生涯学習教育研究センターが核になって積極的に展開しているが、経済学部の教員（数名）も講師等として参画している。08 年度もこれまでと同様なやり方で事業展開を図る。

4.3　地域連携・産官学連携部門

過去、「岸和田市産業振興ビジョン」、「木綿物語プロジェクト」、「岸和田市産業振興新戦略プラン」等において経済学部教員（数名）が係わってきたが、08 年度は岸和田市の各種委員会やプロジェクトに経済学部の教員は係わっていない。なお、教育学部と岸和田市教育委員会、地域共同研究センターと岸和田市商工会議所等との連携が深化しつつある。

4.4　高校連携部門

これまでとくに具体的活動をしてこなかったが、08 年度において岸和田市立産業高校から経済学部に対し高大連携の申し入れがあり、現在具体化に向け検討中である。

4.5　わだい浪切サロンの開設

08 年度より、岸和田サテライトを岸和田市をはじめ南大阪地域の住民と和歌山大学との交流・連携の身近で幅広い場とするため 4 月からサロンを開設した。これまで、7 回開いたが毎回 30 名程度の参加者がある。経済学部からは、第 1 回（4 月、橋本卓爾）、第 4 回（7 月、大泉英次）が講師として参画している。同サロンのポイントは次のとおり。

- 大学教職員が各自の専門分野から身近なテーマや旬のトピックスを分かりやすく話題提供する
- 定時（毎月第 3 水曜日午後 7 時）・定点（岸和田市浪切ホール）開催
- 参加費無料

4.6　岸和田サテライト「友の会」の発足

昨年 12 月岸和田サテライト大学院授業履修生（ＯＢおよび受講中）による「友の会」（会員 40 名）が発足した。履修生の中から 07 年度 1 名、08 年度生 1 名の本科正規大学院生が生まれている。履修生の中には社会人短期履修制度を活用できる者もかなり存在しており、今後「友の会」との連携が重要である。

本年度活動としては、7 月に第 1 回講演会を開催した。

4.7　紀南サテライトとの連携の強化

紀南サテライト、岸和田サテライト両事務室スタッフ間の連携を図る。

5　柑芦会

経済学部同窓会は、和歌山大学経済学部の前身である和歌山商業高等学校の第 1 回卒業式にあたり 1926 年 3 月に結成され、その後 1929 年に当時の岡本校長によって「柑芦会」と命名された。

柑芦会は、会員相互の親睦を図り、かつ、母校と会員との関係を緊密にし、その隆昌と発展を助け、あわせて社会文化の進歩向上に寄与することを目的としている（会則第 2 条：1968 年制定）が、大阪支部では、近年「人生と仕事の幅を広げる！」をモットーに会員及び現役和大生に向けて数コースの「人生塾」を開催している。

2004 年 9 月からは、和歌山大学の教員を講師とする「研究わくわく人生塾」を新設した。

経済学部の教員は、ほぼ 2 ヶ月に 1 回大阪支部会館に出向き、20 名程度の会員等に、「研究の楽しさ」や「現在の研究テーマ」等について、講義を行っている。

また、「人生塾」以外にも柑芦会主催の講演会等で、講師やパネラー等の依頼を受けている。

5.1　研究わくわく人生塾講師

・藤田武弘（観光）　　2008 年 5 月 28 日
　「食を取りまく環境変化と農山村地域における着地型観光の課題」

・廣岡裕一（観光）　　2008 年 7 月 15 日
　「旅行会社の使い方」

・クパニ　ルンビディ　2008 年 9 月 26 日
　「フランスのビジネス・スクールの国際化における国際人材の育成の戦略」

・王　妙発　2008 年 11 月 25 日
　「徐福からスタートした日中関係」

・瀧野邦雄　2009 年 1 月
「東アジア的平等感」
・李　東浩　2009 年 3 月
「未定」
・マグレビ　ナビル　2009 年 5 月
「未定」

5.2　講演会

・大泉英次　2008 年 2 月 3 日
第 19 回柑芦会経済講演会　　於：大阪産業創造館

6　きのくに活性化センター

きのくに活性化センターが 2008 年度に計画している事業のうち、経済学部教員が関係する事業は、次のとおりです。

6.1　フォーラム「川上不白が発信するもの～熊野からのまなざし・江戸からのまなざし」

2008 年 11 月 15 日（土）新宮商工会議所会議室

新宮出身で江戸時代に活躍した茶人川上不白。茶の湯文化をまちづくりに活かし、人と人、人と組織のつながりの再構築を目的とした企画。江戸千家宗家川上紹雪副家元と熊本大・岐阜大の研究者による講演とパネルディスカッションを行った。

教員：鈴木裕範

6.2　川上不白を偲ぶ茶会の開催

郷土の偉人の再評価を目的に、地元茶道の団体である表千家音無会が開催した茶会を後援した。2007 年 12 月に次いで 2 回目で、新宮市における新たな行事として定着する可能性が出てきた。また、地域の菓子組合が連携する動きが生まれている。

教員：鈴木裕範

6.3　「熊野地域検定」公式テキストの策定

田辺商工会議所からの委託事業。熊野地域は、和歌山県を中心とする熊野地域とし、歴史・文化・自然・産業・民俗・人物など各分野からまとめる予定で、この編集作業に携わる。同商工会議所・田辺市・田辺市教育委員会と協同で委員会を設置、来年 3 月末までに制作。世界遺産登録 5 周年となる 09 年 7 月に第一回の検定を実施予定。

教員：鈴木裕範

6.4　田辺市新地の「席亭」に関する文化・経済調査と映像化

「席亭」は、田辺市にある「お茶屋」で、料理を楽しみ芸妓らの芸を鑑賞する文化空間であり、政治・経済人等の夜の社交場であった。この事業では、お茶屋文化の存続が心配されるなか、各お茶屋の女将へのインタビューによる証言と映像で地域の伝統文化を記録するとともに、観光・街中活性化の資源としての可能性を検討する。また、作品は PR 用の資料化を図る。プロデュースとインタビュアーをつとめる。

教員：鈴木裕範

6.5　きのくに秋穫祭

田辺市新庄町にある和歌山県情報交流センターＢｉｇ・Ｕの秋の行事Ｕ遊祭で、標記ほかイベントの企画・プロデュースを行なった。

6.6　那智勝浦町　よみがえれ脇仲倶楽部

町屋や明治大正の建築物が残る仲ノ町で、住民が取り組んでいる町並み再生・まちづくりをともに進めてきたが、和歌山県等の支援もあり引き続き連携・協働事業を展開する。事業主体は脇仲倶楽部・那智勝浦町。大学生の参画も進める。

教員：鈴木裕範

7　生涯学習教育研究センター

経済学部では、従来からセンターの企画運営員会に参画して活動支援や連携・協力活動を行ってきたが、2008 年度においては、具体的にセンター主催の下記のとりくみに積極的に関わった。

- マナビィスト企画ゼミ（7 月 19 日、8 月 2 日、9 月 27 日、11 月 15 日、2009 年 1 月 24 日）
  マナビィスト支援セミナー（2009 年 2 月 14 日）
  担当：金川めぐみ
- 和歌山大学生涯学習教育研究センター研修員特別企画「幸せってなんだろう？」講演会
  コメンテーター　足立基浩　（11 月 9 日）
- わかやま学　和歌山大学生涯学習教育研究センター　「食とまちづくり」
  講演　鈴木裕範
  コーディネーター　足立基浩　（12 月 6 日）

8　紀州経済史文化史研究所

経済学部は、所長（上村雅洋）、幹事（瀧野邦雄、長廣利崇）らの所員を中心に、同研究所の下記のような研究会、展示会などのとりくみに積極的に関わってきた。

- 公開研究会「和歌浦に関する研究報告（第 1 回）」
  5 月 24 日、於：和歌浦地区会館
  協力者：上村、長廣
- 常設展示会「学問の歴史」
  7 月 1 日～10 月 31 日、於：図書館 3 階展示コーナー
  協力者：上村、長廣
- 第 2 回公開研究会「和歌浦に関する研究報告（第 2 回）」
  10 月 26 日
  協力者：上村、長廣
- 南海モダン博覧会
  11 月 7 日～11 月 11 日
  協力者：上村
- 特別展示会「文字と絵図の世界」

11 月 17 日～12 月 19 日
於：図書館 3 階展示コーナー
協力者：上村、長廣

・ 紀州研フィールドミュージアム叢書第 2 弾『和歌浦天満宮』（仮題、清文堂出版）
編集・執筆：上村

9 地域連携オフィス

地域連携オフィスでは、以下の 3 点の活動目的を確認し、それに従った活動を展開してきました。

① 経済学部の組織、個別双方における地域社会への貢献活動の実態をとりまとめ、内外への情報発信をはかる。
② 地域社会の様々なニーズに応えるための学部の窓口となる。
③ 他学部、各種のセンターをはじめとした学内の諸組織との情報交流を進め、地域連携のネットワークをつくっていく。

9.1 社会・地域連携活動のとりまとめと情報発信

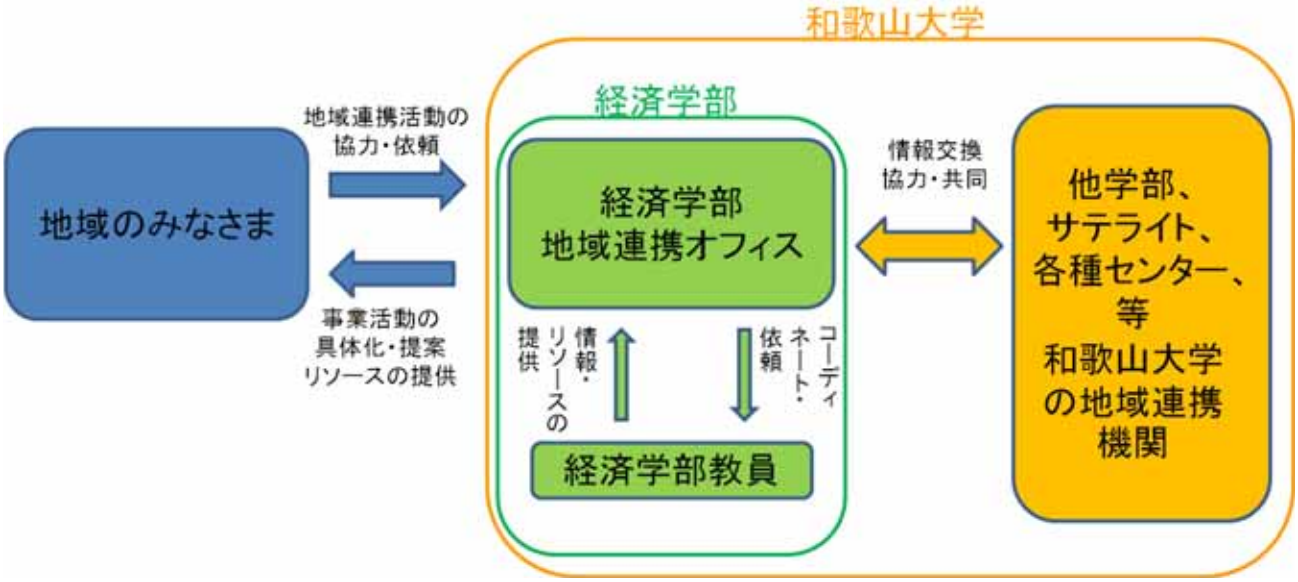
昨年度の『社会・地域貢献活動一覧』冊子に依拠しながら、これまで盛り込まれていなかった学内緒組織での経済学部教員の組織的とりくみや経済学部 OB・OG 会である柑芦会との連携活動などをも盛り込んで、社会・地域貢献活動の実態把握につとめました。さらに、個々の経済学部教員でとりくまれているとりくみについても、ゼミナールでのフィールドワークなど学生や大学院生との共同でのとりくみをも包括する形での情報収集につとめましたが、情報収集やそのとりまとめのあり方について、十分な整理には至らず、今回の冊子には反映させることができませんでした。

情報発信の面では、昨年度の冊子刊行以降のとりくみについて、2008 年 7 月の段階で、「社会・地域貢献活動の中間とりまとめ」として経済学部教授会にて報告を行った上で、本冊子の編集・刊行にとりくみました。また、本冊子のうち、組織的活動の概要については、広く学内外に情報発信することとしました。

9.2 地域社会のニーズに応える窓口

地域連携オフィスが地域社会のニーズと経済学部教員のシーズとを円滑につなぐ機能を果たすため、オフィスの位置づけと機能を図 1 のような概要で整理しました。

図１　地域連携オフィスの窓口機能に関するイメージ



こうした整理に基づいて、地域連携オフィスに届けられた依頼のコーディネートにとりくみました。また、経済学部の Web サイト内に地域連携オフィスのページを作成し、外部への情報発信と窓口機能の整備・充実をはかりました。

9.3　学内諸機関との情報交流とネットワークづくり

これまで経済学部との協力関係が比較的根強かった､紀南･岸和田をはじめとしたサテライト、きのくに活性化センター、柑芦会との連携については、これら諸機関との関係が深いメンバーに地域連携オフィスの委員として参加いただき、日常的な情報交流の円滑化につとめてきました。

さらに、他部局との連携のあり方について検討を深める目的から、地域共同研究センター、観光学部と、部局を超えた社会・地域連携のあり方について、意見交換の機会を設けました。ただし、この面では、情報交流とネットワークづくりのあり方をより全学的な視点から検討していく必要があります。

9.4　地域連携オフィス会議の運営

2007 年度の活動を引き継ぎ、地域連携オフィスの組織活動と運営方針を議論する場として、地域連携オフィス会議を、表 1 にある 7 名のメンバー構成で、計 5 回（2008 年 12 月段階）開催してきました。

地域連携オフィス 2008 年度会議メンバー一覧

河音　琢郎（室長）
足立　基浩
大泉　英次
鈴木　裕範
橋本　卓爾
久保　愛子
山本　敦子